

7月10日は府民防犯の日

子どもを犯罪から守る 地域安全マップ

子どもたちが犯罪から身を守るには、危険な場所に行かないことが大切です。子どもたちが被害に遭わないよう、防犯意識の向上に役立つ「地域安全マップ」を作りませんか。



地域安全マップの作り方

①実際にまちを歩こう

次のキーワードをもとに危険と感じた場所があれば、写真を撮りましょう。



これが
キーワード

「入りやすい場所」と
「見えにくい場所」を
チェック

入りやすい場所

誰でも簡単に入ることができる場所は、犯罪者にとっても同じです。また、同時に「逃げやすい場所」でもあります。



見えにくい場所

犯罪が起きていても、周囲からは分かりにくいため危険。犯罪者にとっては隠れやすい場所ともいえます。



ここに
注意!

撮影はプライバシー侵害に気をつけて。人の顔・表札・車のナンバーは×



②地図に書き込もう

実際に歩いた道路や、川、学校、公園、建物を入れた地図を作りましょう。危険と感じた場所には写真をはり、コメントを書きましょう。



ここが
ポイント!

「なぜ危険なのか」を
書き込む

地図に「危険」と書き込むだけでは、被害防止のための意識と能力の向上にはなりません。なぜ危険なのかを考えましょう。



危険な場所は犯罪が起こりやすい

線路下のトンネルは暗くて見えにくい

キケン!



ガードレールがない。悪い人の車が近づきやすいので怖い

キケン!

キケン!



落書きや散らかったゴミがそのまま。近所の人の関心が無く、悪い人が入りやすい

キケン!



木や草で囲まれていて道から見えにくい。入り口がたくさんあるので入りやすい

地域安全マップは、子どもたちに「入りやすい」「見えにくい」危険な場所を気付かせるのが目的です。マップづくりを通じて、子どもはどのような場所で犯罪が起こりやすいのかが分かり、より安全な道を歩いたり、危険な場所ではいつもより注意しながら歩くなど安全に行動できるようになります。



実際に作成されたマップ